

時代の大きなうねりとともにやってきた大震災。たくさんの方が失われ、風景はその形を変え、人々の心に複雑な色合いの影が加わりました。よりどころを失った人と地域に、アートはなんの役にも立たないのでしょいか。それぞれが明日へ向かって踏み出すための一助となるのでしょいか。地域に分け入り、試行錯誤をくりかえしながら展開する宮城県の10のプロジェクト。立場によって当事者にも傍観者にもなる、さまざまなグラデーションの一部であることを自覚しながら、アートと被災地、その支援の在り方について、「みんな」でカンがえるシンポジウムです。

2012/
3/24 [土]

13:00~17:00

(懇親会17:20~19:20)

*参加希望の方は、えぞこホールまでお申し込みください。

参加無料

*懇親会参加費 一般 2,000円 学生 1,000円

被災地がアートと出会うこと。 アートが被災地にできること。

アーティストラン!イボイステーション!

雄勝法印神楽 舞の再生計画

アート・インクルージョンクリスマスプロジェクト2011

カラダでぶつかり、汗を流す。集え、21人の涙の子たち

女川コミュニティカフェプロジェクト

震災ケア・アートサロン

藤浩志とカンがえるワークショップ

山元町伝統工芸職人支援事業

Art Support Tohoku-Tokyo

芸術文化による支援をカンがえる

シンポジウム

マイタウンマーケットキャラバン

会場 | えぞこホール(仙南芸術文化センター)

〒989-1267 宮城県柴田郡大河原町字小島1-1

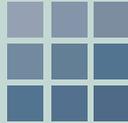
主催 | えぞこ芸術のまち創造実行委員会、東京都、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)

お申し込み・お問い合わせ | えぞこホール(仙南芸術文化センター) tel. 0224.52.3004 E-mail info@ezuko.com

*Art Support Tohoku-Tokyo(東京都による芸術文化を活用した被災地支援事業)は、アーティストと市民が協働するプログラムで被災コミュニティの文化的復興を支援する事業です。

ART
SUPPORT
TOHOKU-
TOKYO





アートが被災地にできること。 被災地がアートと出会うこと。

※本事業はArt Support Tohoku-Tokyo(東京都による芸術文化を活用した被災地支援事業)です。

お申し込み・お問い合わせ |

えすこホール(仙南芸術文化センター)
〒989-1267 宮城県柴田郡大河原町字小島 1-1
TEL 0224-52-3004 FAX 0224-51-1130
E-mail info@ezuko.com URL www.ezuko.com/

スケジュール

2012/
3/24

13:00-13:20
(移動・休憩10分)

13:30-14:45
(休憩15分)

15:00-17:00

17:20-19:20

全体のプログラム

Chapter1

【会場 | 平土間ホール】

被災地支援、何はともあれやってみたこと
..... 事業とプロジェクトの簡単な紹介

Chapter2

【会場 | ホール内各分科会会場】

分科会/10のプロジェクトと4つの方向性

*プログラムの詳細は右欄をご覧ください。

Chapter3

【会場 | 平土間ホール】

パネルディスカッション
「被災地でアートは何の役に立つのか」

- コーディネーター／
藤浩志(美術家)
- パネラー／
小山田徹(美術家・京都市立芸術大学准教授)
岩間賢(美術家・東京芸術大学非常勤講師)
村上タカン(MMIXLab代表・宮城教育大学准教授)
坂口大洋(仙台高等専門学校建築デザイン学科准教授)
横田重俊(こどもとあゆむネットワーク代表)
高田彩(ビルドフルーガス代表)
北澤潤(アーティスト)

Chapter4

【会場 | バーカウンター前】

懇親会/交流フリートーク

言いたいのに言えなかったこと、パネリストにもっと聞きたいことなどなど、軽食を片手に語り合しましょう!

Chapter 2

分科会 / 10のプロジェクトと4つの方向性

*Chapter 2の詳細プログラム

Group I 「仮の暮らしを生きること」をカンがえる

住み慣れた家を奪われ、入居した仮設住宅。いずれは出ていくことになる仮住まいの地で、共に暮らす人々々々どのように過ごし、次の一歩へ向けて何を紡ぐのか。外からの支援者はその時間をどのように共有できるのか。3つのアプローチから考えます。

<参加プロジェクト>

- ①「アート・インクルージョンクリスマスプロジェクト2011」
(「あすと長町仮設住宅」でのクリスマスアート企画による交流促進事業)
- ②「アーティスト・ラン!! イボインステーション!!」
(塩釜市伊保石地区仮設住宅でのラジオ放送や音楽活動を通じたコミュニティ支援事業)
- ③「マイタウンマーケットキャラバン」
(被災地の住民が主体となり「街を模した市場」を作る仕組みを他の仮設住宅に伝えるプロジェクト)

Group II 「聴く、話す、つながる場づくりの必要性」をカンがえる

失ったものの大きさに立ちすくんで前に進めない時、誰かとの何気ないおしゃべりが心をほぐし、微かな光が射してくることがあります。そんな場所をどうやって創るのか。「対話」を育むことに取り組み2つのプロジェクトを検証します。

<参加プロジェクト>

- ①「女川コミュニティカフェプロジェクト」
(女川町立病院前コミュニティスペースでのアーティストによるワークショップと対話の場創り)
- ②「震災ケア・アートサロン」
(被災地で子育て中のお母さんと保育従事者向けアートワークショップと対話の場創り)

Group III 「子どもに笑顔がもどるには」をカンがえる

目の前に厳しい現実が横たわる時、そこに子どもの笑顔があること、子どもたちのために動くことが、大人たちに限りない勇気を与えてくれます。日常の風景が一変してしまった時、どうやってその笑顔を取り戻せばいいのか。2つの事例から考えます。

<参加プロジェクト>

- ①「カラダでぶつかり、汗を流す。集え、21人の涙っ子たち」
(津波被災で離散した石巻市立浜浜小学校の子どもたちが集まれる機会を創出)
- ②「アートポンプ計画_気仙沼 こどもと復興商店街ワークショップ」
(津波で被災した商店街復興のため、こども向けのワークショップを開催)

Group IV 「伝統一何かが流され、失われたのか」をカンがえる

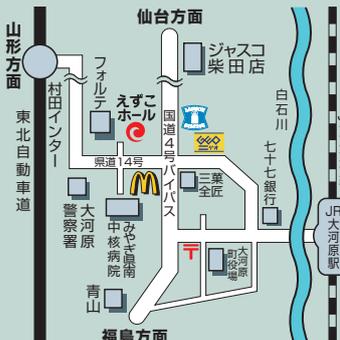
遥かな過去から脈々と受け継がれ、当たり前のように人々の間にあったもの。街が流された時、それらも一緒に流されてしまったのでしょうか。伝統の再生は地域の再生にどのように役立っていくのでしょうか。もう一度その意味を確かめます。

<参加プロジェクト>

- ③「雄勝法印神楽 舞の再生計画」
(石巻市雄勝地方の神楽舞台の再建支援、小中学校での「神楽の舞ワークショップ」の実施)
- ④「アートポンプ計画_山元町 山元町伝統工芸職人支援事業」
(裂き織り等の伝統工芸を継承するための職人支援事業)

※「藤浩志とカンがえる(地域とアートをつなぐ美術家・藤浩志とともに被災地を訪問。調査ヒアリングを行うワークショップ)のメンバーは4つの分科会に分かれて参加。

Chapter2では、Chapter3のパネラーのほか、各プロジェクトの現場で支援に携わっているメンバーも参加します。



|会場へのアクセス|

- ◇JR東北本線 | JR大河原駅から車で約10分。
- ◇高速道路(東北自動車道) |
- 村田ICから大河原方面へ車で約10分。
- 白石ICから仙台方面へ車で約15分。
- ◇国道4号バイパス |
- マクドナルド、ローソンの交差点を村田IC方面(県道14号)へ。ショッピングセンターフォルテとなり。

Art Support Tohoku-Tokyo

「東京都による芸術文化を活用した被災地支援事業」は「東京緊急対策2011」の一環として、東京都が公益財団法人東京都歴史文化財団と共催し、被災地に対して、芸術文化活動の提供やアーティストの派遣等を行う事業です。

地域の多様な文化環境の復興を目指して、本事業は、東京文化発信プロジェクトの一環である「東京アートポイント計画」の手法を用いて実施されます。事業は被災地の生活圏において、多様な分野や人々との交流のプロセスを重視したプログラムづくりを行います。事業の立案や実施は、現地のアートNPO等の団体やコーディネーターと連携して行います。震災以降にさまざまな場面で分断が余儀なくされる地域コミュニティへ、アートプログラムの実施を通して新たな交流の回路を拓き、地域の多様な文化環境の復興を支える仕組みづくりを支援します。